

射 手 中 村 考 晴



10月22日、四十九所神社にて「高山流鏑馬」が行われました。「高山流鏑馬」はおよそ900年の歴史を誇る伝統行事です。元は国家安泰、五穀豊穰、悪疫退散を祈願する年占いで、現代でもこの願いが込められています。

狩衣装束にあやい笠を身にまとい、弓受けの儀により神の使いとなった射手は、神馬とともに約330mの馬場を駆け抜けながら、合計9本の矢を射ます。全国的に成人の射手が多い流鏑馬ですが、高山流鏑馬は、毎年その年の中学2年生が射手を務めます。

今年の射手は、高山中学校2年生の中村考晴君。後射手は昨年射手の高山中学校3年生の吉永昊志朗君が務めました。

二人の若き射手が、たくさんの人々の期待と願いを一身に受け、馬場を駆け抜けました。

後 射 手 吉 永 昊 志 朗

